

# 新緑ニュース

病院の理念

確かな医療技術  
やさしい対応  
地域への貢献

〒226-0025 横浜市緑区十日市場1726-7  
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271



## 院長就任のご挨拶

院長 長島 梧郎

2026年4月より、鈴木龍太前院長の後を受け、院長に就任いたしました長島梧郎でございます。

私は、東京医科歯科大学（現在の東京科学大学）の出身で、脳神経外科医を志して東京医科歯科大学および関連施設での勤務を経て、当院が開院した4年後の1995年に、昭和大学藤が丘病院に赴任しました。前病院長の鈴木龍太三喜会理事長の後輩というご縁もあり、この大役を仰せつかりました。1970年、田園都市線が鷺沼から長津田に延伸された4年後に緑区（現在の青葉区）に転居して以降、50年以上この地域に住んでいます。

社会保障費が国政選挙でも大きなテーマの一つにあげられる中、新しい地域医療構想が走り始めています。国民が安心して生活できるよう、おおよそ20万人の居住圏に一つの急性期医療機関を設置していくことになります。緑区には、基幹病院としての急性期病院は当院だけになります。長くこの地に暮らして来た一人として、この地域で求められている医療は誰よりも熟知しているつもりです。

一方で、自分が育ってきた時代は、まだまだ医療機関によって提供できる医療に差がありました。難しい医療は大学の関連施設で、それ以外の医療機関では比較的難易度の低い診療が行われてきました。時代は大きく変わり、以前は困難と言われていた治療も難易度がさがり、急性期医療をしっかり展開している医療機関であればどこに行っても同等の治療が受けられる時代になりました。大学病院は高度先進医療に軸足を置き、

地域の医療を守るのは基幹病院としての急性期医療機関が担う時代になりました。これからの時代、医療機関は診療の質だけでなく、医療安全や臨床倫理、患者サービスなど、医療全体としての質の向上が求められています。2015年から日本医療機能評価機構のサーベイヤーとして全国の大学病院の審査を担当してきた目を生かし、この地域に住まわれている方が必ず満足していただける医療機関を目指して行きますので、是非、ご期待いただければと思います。

蛇足ですが、大学時代はボート部に所属し、全日本軽量級優勝、ユニバーシアード代表、全日本大学選手権総合優勝などの戦績を上げ、現在は東京医科歯科大学（現 東京科学大学医歯学系）漕艇部OB会「茗水会」会長として、合併した東京工業大学端艇部（現東京科学大学理工学系）OB会「蔵前倶楽部」とタッグを組んで、日本のボート界のレベルアップに取り組んでいます。ボートに造詣の深い方がいらっしゃいましたら、是非、お声かけください。



### WEB版みんなの健康講座 ※オンライン配信

病気や健康に関する情報を発信しています。Web版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン(QRコード)からいつでもご視聴いただけます。



発行  
地域医療  
連携室

## 4月入職 常勤医師のご紹介

※ご挨拶と写真は5月号に掲載します。

### 《泌尿器科》部長 佐々木 春明 (ささき はるあき)

#### 男性機能・泌尿器科一般

- 日本泌尿器学会代議員・指導医
- 日本性機能学会理事長・専門医
- 日本メンズヘルス医学会 理事
- 日本アセアンメンズヘルス及び加齢男性医学会理事
- 日本アンドロロジー学会 評議員
- 神奈川ウロロジー医会 副代表世話人

### 《整形外科》案納 忠織 (あんのう たださと)

#### 整形一般

- 日本整形外科専門医

### 《内科・糖尿病》窪田 珠理 (くぼた じゅり)

#### 糖尿病内分泌

- 日本内科学会専門医
- 内分泌代謝・糖尿病内科専門医

## 部署紹介

## リハビリテーション部 言語聴覚療法科

### 「話したい、食べたい」その一歩を、チームで支えたい

科長 土屋 幸江

ご存知ですか？『言語聴覚士』は、脳血管疾患や内科疾患などにより、コミュニケーションや食べる力に支障をきたした患者さんのサポートするリハビリテーション職です。まだまだ認知度の低い職種です。部署紹介で広く知っていただけること、とてもうれしく思っています。

当院言語聴覚療法科には国家資格である言語聴覚士が10名配置され、急性期病棟と回復期病棟において、入院早期から失語症や構音障害へのアプローチに加え、安全な食事摂取を目指す摂食嚥下訓練、自分らしさを取り戻すための高次脳機能訓練（記憶力や注意力など）を実施しています。

「確かな医療技術 やさしい対応 地域への貢献」という病院理念のもと、リハビリテーション部では、残存機能を最大限に引き出し、生活の再構築を支援することをミッションとしています。言語聴覚療法の成果を実感し、機能が回復することで、患者さんと私たち双方が幸福感を分かち合えるよう、医師や看護師、他職種と密に連携をして少しでも早く退院の日を迎えられるよう、これからも個々の力、チーム力を高めていきたいと思っております。



## 人命救助

## 救命処置を行い感謝状をいただきました！

作業療法士 玉井 望

2026年1月4日、成瀬鞍掛グラウンドで息子の少年野球の練習があり、車で送り届けたところ、グラウンドに人だかりができていました。近くに行くと男性が倒れており、周囲の人が呼びかけを行っていました。意識がない様子だった為、その場にいた方と協力をして、救急隊が到着するまで胸骨圧迫を継続するなど、必要な応急対応を実施しました。その後、男性は病院へ救急搬送され、心筋梗塞の診断でカテーテル手術を行い、回復していると連絡がありました。緊急の状況でしたが、これまで受講した救命講習の内容を思い出し、冷静に対応することを心がけました。特別なことをしたというよりも、目の前の状況に対してできることを行ったという思いです。今回の経験を通じて、日頃の備えの重要性を改めて感じました。当院では、医療安全で救急対応の向上を目的として、人形を使用したBLSの定期的な研修や講習の機会を設けています。

今回の行動は、こうした日頃の取り組みが実践につながった一例と受け止めております。今後も当院は、地域の皆様の健康と安全に寄与するとともに、職員一人ひとりが高い倫理観と責任感をもって行動できる組織づくりを推進してまいります。

